



明日香村（ならの道ふれあい写真コンテストより）

総説

総 説

奈良県の沿革	1
県政 奈良県政年表	6
市町村変遷表	8
行政区画	12
位置、面積	12
地 形	13
地質、気象	14
人 口	15
産 業	17
農 業	17
林 業	17
工 業	18
商 業	19
文化・観光	21
主要山岳一覧表	23
主要河川一覧表	24

奈良県の沿革

大和は国のまほろば

紀元前3世紀頃、日本列島に稲作がもたらされると奈良盆地は豊かな米作地帯となりました。大陸の高度の文化はこの地に開花し、大和の地は我が国の政治・文化の中心地として中国にならい、都城藤原京（694年）・平城京（710年）が造られ、飛鳥・白鳳・天平の輝かしい文化が醸成されました。

その後、都が平安京に移ったため、一時平城の都はさびれましたが、やがて社寺中心に甦り、鎌倉時代には、大和の国は興福寺・春日大社の荘園で占められるまでになりました。

戦国時代、この大和の地も戦乱が絶えることなく、幾多の興亡が繰り返されましたが、その後織田信長の庇護のもとにあった筒井氏が大和を統一しました。

江戸時代には、綿花・菜種・小豆などの商品作物や、三輪そうめん・吉野葛・宇陀紙・奈良晒・大和餅・吉野杉などの特産品が、隣接する大消費地大坂・京都に運ばれ大和に富をもたらしました。

明治20年に現在の奈良県が誕生

明治維新を迎えると、慶応4年1月に大和鎮台が設置され、以後、行政区画の改廃が繰り返されましたが、明治4年には大和国を統一した奈良県が成立しました。しかし、明治9年堺県に合併、さらに明治14年には大阪府に合併とめまぐるしく変化し、その中で、大和の人々は奈良県の再設置を粘り強く求めつづけました。ついに、明治20年11月4日、奈

良県の誕生を迎えることができました。明治21年1月9日には第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれています。

明治22年4月1日の町村制施行当時、10町142村2組合村で、人口は50万人ほどでした。その後県勢の発展にともない、昭和30年前後に市町村合併が促進され、現在は、10市20町17村で、人口は約144万人となっています。

環境との調和をはかりながら

奈良県は、気候・風土に恵まれているものの、海がなく河川に乏しいという条件もあって、明治以降も農業・林業が産業の中心でしたが、昭和38年から始まった奈良県新総合開発計画をはじめとする県勢の振興計画による産業基盤の整備や公害のない工場誘致等により急速に工業化・都市化が進みました。人口も昭和40年代初めから50年代中ごろにかけて、大都市大阪等のベッドタウンとして急増してきましたが最近はやや伸び率が鈍化しています。しかし、依然として、人口増加率は全国でも上位にあり、大和平野地域に人口が集中する一方、その他の地域では過疎化、高齢化が一段と進みました。そこで、美しい自然環境のもとで、健康で豊かな家庭生活を築きつつ平和で楽しい社会生活を共にし、世界各国とも直結した奈良県づくりの指針として昭和59年に「奈良県長期基本構想」を策定しました。さらに、その後の社会経済情勢の変化、構想・計画段階であった事業の具体化も進んだため「奈良県長期基本構想(修正)」を策定しました。そして、平成7年には社会の新たな潮流や本県の特長・課題を踏まえ、「奈良県新総合計画」を策定しました。

そして今21世紀に向けて

奈良県は、21世紀を間近に控え、人間性への回帰や自然志向の高まり、また多彩な交流が一層強く意識される中で、新しい世紀に力強く羽ばたく素晴らしい可能性に満ちています。奈良県新総合計画では、「世界に光る奈良県づくり」を基本目標とし、歴史、文化、自然といった本県の優れた特性を最大限に生かし、より大きな新たな魅力を創造して新しい時代にふさわしい個性と魅力に満ち、内外から注目されるような存在感のある地域となることをめざしています。今後その実現に向けて、県土の基盤整備、医療福祉、産業振興、国際文化観光、生活環境、人材育成、地域整備など各分野の施策を積極的に推進していきます。

「世界に光る奈良県づくり」の主要プロジェクト

京奈和自動車道



京都―奈良―和歌山を結ぶ高規格幹線道路。
大和平野を南北に縦貫する自動車専用道路として計画され、本県においては、すでに西名阪自動車道～和歌山県界間で事業が進められています。
奈良県の背骨となる重要な道路で、早期の整備が望まれています。

五條新宮道路



県南部地域の骨格となる地域高規格道路。すでに、一部の区間で事業が進められています。

吉野地域の発展、振興に大きく寄与するとともに、五條市を中心とする内陸地域と、新宮市を中心とする臨海地域の連携を強化することにより、紀伊半島の発展を促します。

太平洋新国土軸構想 (東海南海連絡道)

紀伊半島の中央部を横断する東海南海連絡道は、太平洋新国土軸の主要な部分をなす路線であり、西日本における広域経済文化圏の形成に資するとともに、本県の五條・吉野地域の地域開発効果が期待されています。

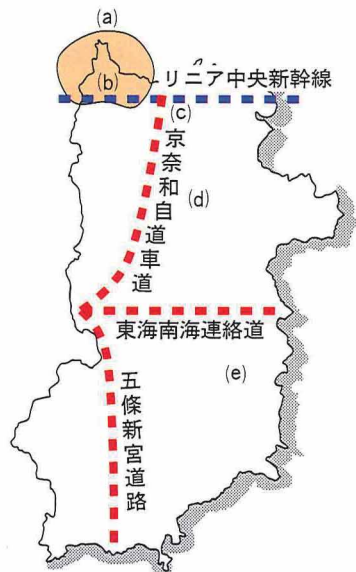
リニア中央新幹線



東京～大阪間の時間距離を大幅に短縮し、国土の均衡ある発展に貢献する路線です。

また東海道新幹線のバイパス機能を果たし、資源の有効利用などの点においても優れた大量高速輸送機関として期待されています。

県では、リニア奈良駅設置に取り組んでいます。



平城遷都1300年に向けて



西暦2010年には、わが国初の大規模な国際首都であった「奈良・平城京」が誕生して1300年目となる記念すべき年を迎えます。

この平城遷都1300年に向けて、平城宮第一次大極殿院の復原を中心とした平城宮跡の整備の推進などをはじめ、全国や世界の人々が訪れ、互いに交流できる「歴史・文化国際交流ゾーン」の形成と平城遷都1300年にふさわしい国民的な記念イベントの開催のための取り組みを進めています。

(写真提供：奈良国立文化財研究所)

JR奈良駅付近連続立体交差事業(c)

駅周辺において、新しい都市拠点づくりが実施されていますが、さらに鉄道を高架化することにより、東西の土地利用が増進され、都市機能の集積や生活環境の向上が図られるように、事業を進めています。

(仮称)万葉ミュージアム(d)



万葉歌をモチーフにした創作日本画や万葉の世界を楽しくわかりやすく紹介する展示とともに、建設地から発見された遺構の復原や、富本銭をはじめとした出土品の実物展示なども行います。

また、万葉集を中心とした日本の古代文化の研究機能や図書・情報サービスなどの機能も備えた、万葉集を中心としたわが国の古代文化に関する総合文化施設の整備を明日香村において進めています。

関西文化学術研究都市(a)



21世紀に向けた創造的、国際的、学際的、業際的な文化・学術・研究の新しい拠点づくりを目指し、産・学・官の連携協力のもと、都市建設を進めています。

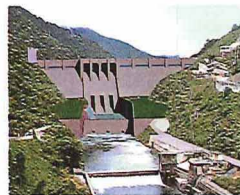
奈良県域では4つの文化学術研究地区を配していません。

京阪奈新線の整備(b)

京阪奈新線は、関西文化学術研究都市の整備等に伴い発生する鉄道輸送需要の増加に対応し、大阪都心部と関西文化学術研究都市を直結する東西方向の幹線軸を形成する路線です。

県では、生駒市、奈良市、近鉄などと奈良生駒高速鉄道(株)を設立し、平成17年10月の開業を目標に整備を進めています。

大滝ダム(e)



水資源の確保を図るため、治水、利水、及び発電を目的とした大滝ダム(多目的ダム)の建設を川上村で進めています。

利水流量7.0m³/秒(うち県営水道3.5m³/秒)

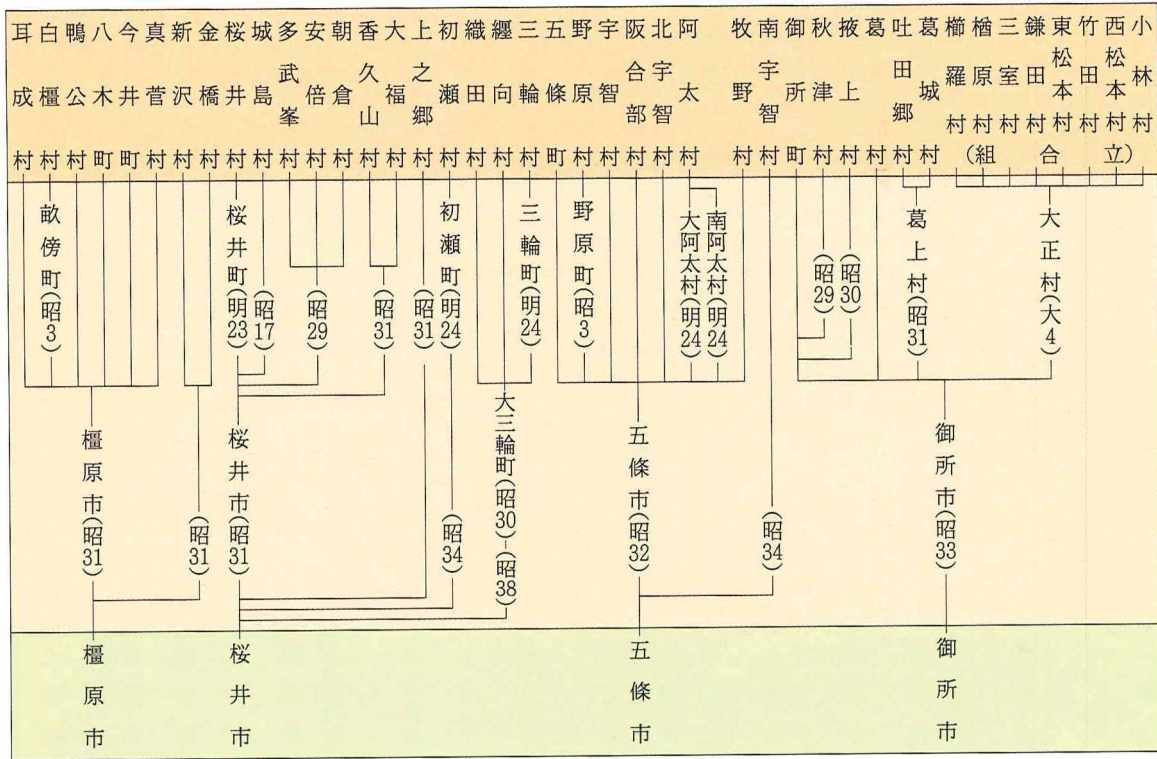
奈良県政年表

西 暦	年 月 日	事 項
1868年	慶応4年1月21日	大和鎮台が設置され、のち2月1日大和国鎮撫総督府と改称した。
	5月19日	奈良県を置き(知事春日仲襄)これを管領する。
	7月29日	奈良県は奈良府と改称した。
	明治元年9月8日	明治と改元。
1869年	2年6月17日	各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。(郡山県-柳沢氏15.1万石、高取県-植村氏2.5万石、柳本県・芝村県-織田氏各1万石、橿羅県-永井氏1万石、小泉県-片桐氏1.1万石、柳生県-柳生氏1万石、田原本県-平野氏1万石の8県)
	~24日	
	7月17日	奈良府は奈良県と改称した。
1870年	3年2月27日	奈良県の一部(旧宇智、吉野郡)を分け五條県を置く。
1871年	4年7月14日	廃藩置県により大和国内に奈良県、五條県のほか、郡山県、高取県、小泉県、柳生県、田原本県、柳本県、芝村県、橿羅県、和歌山県、津県、久居県、壬生県、大多喜県が誕生する。
	11月22日	奈良・五條を含む15県を廃止し、奈良県を設置、県内を添上・添下・平群・山辺・式上・式下・十市・宇陀・高市・広瀬・葛上・葛下・忍海・宇智・吉野の15郡に分け統轄(県令四条隆平)する。
1876年	9年4月18日	堺県と合併される。
1881年	14年2月7日	堺県が大坂府に合併される。大和15郡を4連合郡役所で所管。
	11月29日	大和国一覧表によれば15郡261町1,333村で戸数99,005戸、人口476,709人となっている。
1887年	20年11月4日	大坂府から分離して奈良県が再設置された。
	12月1日	奈良県開庁。(知事に税所篤)
	27日	第1回奈良県議会議員35名の当選告示。
1888年	21年1月9日	第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれた。
1889年	22年4月1日	町村制が施行された。10町142村2組合村。
1895年	28年12月15日	県庁舎が落成し移庁式が奉行する。

西 曆	年 月 日	事 項
1897年	明治30年8月1日	郡制の実施、添下・平群を合わせて生駒郡、式上・式下・十市を合わせて磯城郡、広瀬・葛下を合わせて北葛城郡、葛上・忍海を合わせて南葛城郡とし、添上郡、山辺郡、宇陀郡、高市郡、宇智郡、吉野郡を合わせて10郡となり、各郡に郡役所を設置する。
1898年	31年2月1日	添上郡奈良町に市制を施行する。
1926年	大正15年7月1日	郡役所廃止。
1942年	昭和17年7月1日	県内7カ所に地方事務所設置。
1947年	22年4月15日	初の公選知事選挙が行われた。
1955年	30年9月17日	地方事務所を廃止。
1956年	31年10月	吉野熊野特定地域総合開発計画が閣議決定された。
1963年	38年11月	奈良県新総合開発計画を策定した。
1965年	40年3月18日	新県庁舎竣工。
1968年	43年3月	第2次奈良県新総合開発計画を策定した。
1973年	48年3月	奈良県長期基本計画（第3次）を策定した。
1978年	53年3月	奈良県長期基本計画（第3次）〔修正計画〕を策定した。
1984年	59年4月	奈良県長期基本構想を策定した。
	9・10月	わかくさ国体を開催した。
1987年	62年11月4日	奈良県置県100年を迎えた。
	12月1日	第200回奈良県議会を開催した。
1988年	63年3月28日	関西文化学術研究都市（奈良県域）の建設に関する計画が内閣総理大臣の承認を得た。
	4～10月	なら・シルクロード博を開催した。
1991年	平成3年10月1日	香芝町の市制施行により、10市20町17村となる。
1992年	4年2月	奈良県長期基本構想（修正）を策定した。
1995年	7年4月	奈良県新総合計画を策定した。
	9月	第8回全国スポーツ・レクリエーション祭を開催した。
1996年	7月	県分庁舎竣工。

市町村変遷表

明治22年	奈良町	佐保村	都安寺村	大東市	平城市	辰ヶ谷村	五ヶ解村	帯解村(添上郡)	富雄村	伏見村	田原村	柳生村	大柳生村	東里村(添上郡)	狭川村	高田村	土庫村	松塚村	浮孔村	磐園村	陵西村	天満山町	郡山井村	筒井村	平和村	治道村	矢田村	平端村	本片田村	片桐本村	櫛本堂	二階和	朝和	山辺	福住	柳本		
変遷	奈良市(明31)	(大12)	(昭15)	(昭26)	(昭26)	(昭30)	(昭2)	(昭28)	(昭25)	(昭32)	(昭2)	(昭16)	(昭2)	(昭16)	(昭2)	(昭16)	(昭16)	(昭10)	(昭28)	(昭16)	(昭10)	(昭28)	(昭16)	(昭10)	(昭28)	(昭10)	(昭28)	(昭10)	(昭28)	(昭10)	(昭28)	(昭10)	(昭28)	(昭10)	(昭28)	(昭10)	(昭28)	
現在	奈良市																																					



市町村変遷表 (つづき)

北生駒村	南生駒村	北五位村	五上田村	二都美村	志都瀬村	月ヶ瀬村	針ヶ野村	都介野村	東山野村	波多野村	豊原村	明治村(平群郡)	三郷村	法隆寺村	富郷村	安堵村	川西村	三宅村	田原町	平野村	川東村	都多山	松政山	神戸村	宇太村	宇賀志村	榛原村	伊那佐村	内牧村	室生村	三本松	東里村(山辺郡)	曾爾村	御杖村	高取村	越智岡村	船倉村					
生駒町(大10)	生駒町(昭30)	生駒町(昭32)	香芝町(昭31)	都祁村(昭30)	平群村(明29)	竜田町(明25)	三郷町(昭41)	斑鳩町(昭22)	安堵町(昭61)	川西町(昭50)	三宅町(昭49)	田原本町(昭31)	大字陀町(昭17)	菟田野町(昭10)	菟田野町(昭31)	大字陀町(昭17)	菟田野町(昭31)	菟田野町(昭31)	高取町(明24)																							
生駒市(昭46)	香芝市(平3)	月ヶ瀬村(昭43)	都祁村(平3)	山添村(昭31)	平群町(昭46)	三郷町(昭41)	斑鳩町(昭22)	安堵町(昭61)	川西町(昭50)	三宅町(昭49)	田原本町(昭31)	大字陀町(昭17)	菟田野町(昭31)	菟田野町(昭31)	大字陀町(昭17)	菟田野町(昭31)	菟田野町(昭31)	高取町(昭29)	高取町(昭29)																							
生駒市	香芝市	月ヶ瀬村	都祁村	山添村	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	川西町	三宅町	田原本町	大字陀町	菟田野町	榛原町	菟田野町	菟田野町	菟田野町	高取町(昭29)	高取町(昭29)																							

